

世界好配当株投信 (年4回決算型)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第78期(決算日2024年7月10日)

第79期(決算日2024年10月10日)

作成対象期間(2024年4月11日～2024年10月10日)

| 第79期末(2024年10月10日) | |
|--------------------|-----------|
| 基準価額 | 26,986円 |
| 純資産総額 | 25,036百万円 |
| 第78期～第79期 | |
| 騰落率 | 7.3% |
| 分配金(税込み)合計 | 200円 |

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、世界好配当株投信 マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

野村アセットマネジメント株式会社

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

●サポートダイヤル

0120-753104 (受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

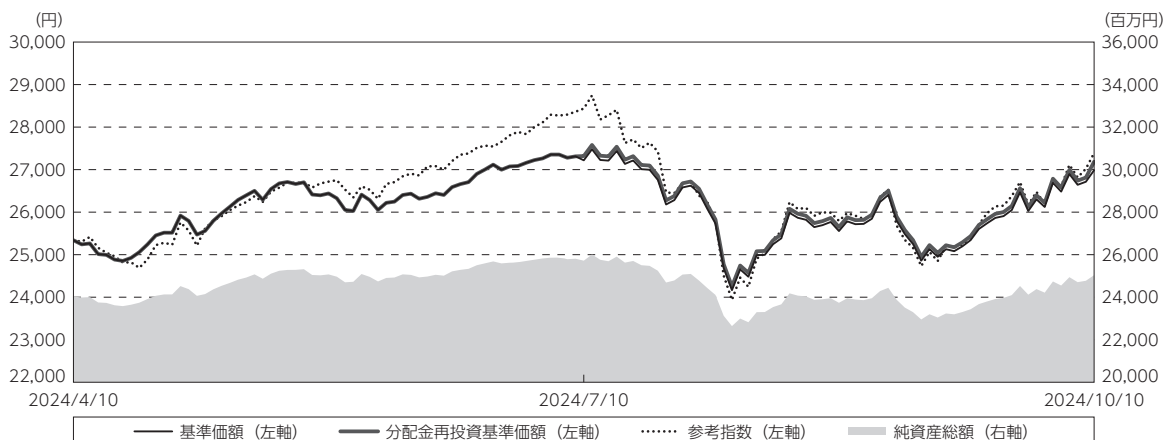
●ホームページ

<https://www.nomura-am.co.jp/>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2024年4月11日～2024年10月10日)



第78期首：25,340円

第79期末：26,986円 (既払分配金(税込み)：200円)

騰落率：7.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2024年4月10日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 参考指数は、MSCI ワールド インデックス(税引後配当込み、円換算ベース)です。詳細は4ページをご参照ください。参考指数は、作成期首(2024年4月10日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

第78期

(上 昇) 米国の大手スマートフォンメーカーの1-3月期の売上が市場予想を上回ったこと、一部のECB(欧州中央銀行)メンバーが早期の利下げが適切と判断していたことが明らかとなったこと、為替市場で米ドル高・円安が進行したこと

(上 昇) オランダの半導体製造装置メーカーが最新鋭機器を台湾の大手半導体メーカーへ納入する見通しを示したこと、為替市場で米ドル高・円安が進行したこと、米長期金利が低下したこと

第79期

(下 落) 米自動車メーカーの4-6月期の決算において利益が市場予想を下回ったこと、為替市場で米ドル安・円高が進行したこと

(上 昇) FOMC(米連邦公開市場委員会)において政策金利の0.5%引き下げが決定され、FRB(米連邦準備制度理事会)が労働市場を下支えする姿勢を明確化したこと、中国の積極的な景気刺激策を好感したこと

1 万口当たりの費用明細

(2024年4月11日～2024年10月10日)

| 項 目 | 第78期～第79期 | | 項 目 の 概 要 |
|-------------------------|-----------|------------|--|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信託報酬 | 円 159 | % 0.607 | (a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 |
| (投信会社) | (72) | (0.276) | ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等 |
| (販売会社) | (72) | (0.276) | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等 |
| (受託会社) | (14) | (0.055) | ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等 |
| (b) 売買委託手数料 | 4 | 0.016 | (b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (株 式) | (4) | (0.016) | |
| (c) 有価証券取引税 | 4 | 0.015 | (c) 有価証券取引税＝作成期間の有価証券取引税÷作成期間の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| (株 式) | (4) | (0.015) | |
| (d) その他費用 | 2 | 0.007 | (d) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数 |
| (保管費用) | (1) | (0.005) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監査費用) | (0) | (0.002) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| 合 計 | 169 | 0.645 | |
| 作成期間の平均基準価額は、26,226円です。 | | | |

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

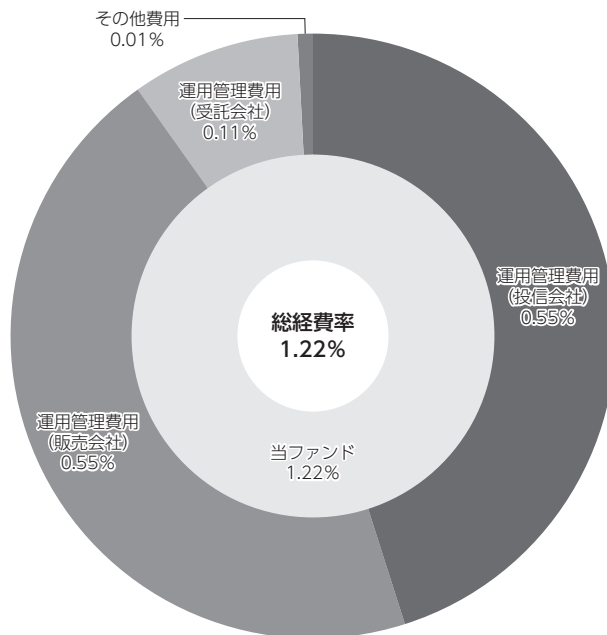
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.22%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

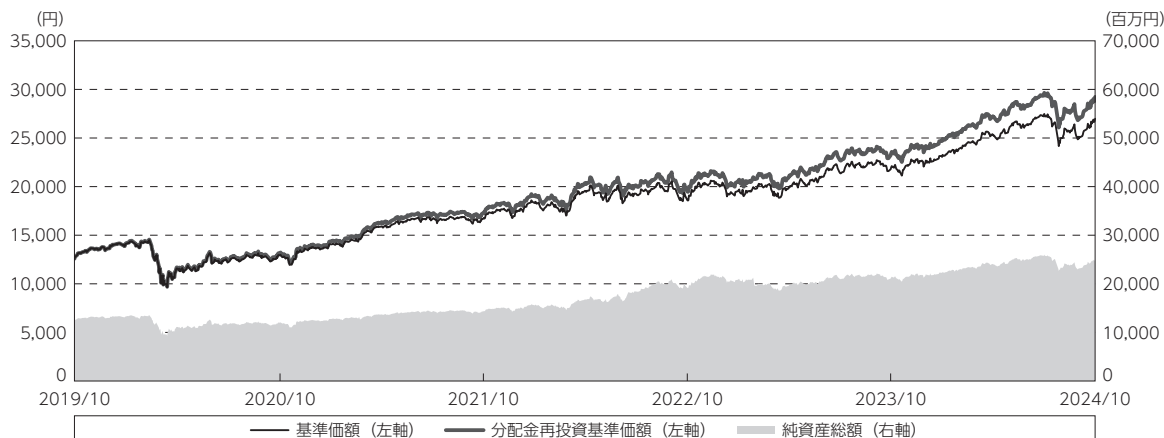
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 当ファンドのその他費用には、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2019年10月10日～2024年10月10日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2019年10月10日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

| | 2019年10月10日 決算日 | 2020年10月12日 決算日 | 2021年10月11日 決算日 | 2022年10月11日 決算日 | 2023年10月10日 決算日 | 2024年10月10日 決算日 |
|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 基準価額 (円) | 12,574 | 12,923 | 16,700 | 18,609 | 21,783 | 26,986 |
| 期間分配金合計 (税込み) (円) | — | 240 | 240 | 240 | 360 | 400 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | 4.7 | 31.2 | 12.9 | 19.1 | 25.8 |
| 参考指数騰落率 (%) | — | 14.6 | 34.2 | 3.6 | 24.0 | 32.5 |
| 純資産総額 (百万円) | 12,346 | 11,997 | 14,318 | 19,157 | 21,083 | 25,036 |

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

*参考指数 (= MSCI ワールド インデックス (税引後配当込み、円換算ベース)) は、MSCI World Index をもとに、委託会社が円換算したものです。

* MSCI World Index は、MSCI が開発した指数です。

同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(出所) MSCI、ブルームバーグ

投資環境

(2024年4月11日～2024年10月10日)

世界の株式市場は、当作成期初、イスラエルとイラン間の緊張の高まりを受けて中東情勢の緊迫度が一層増したことから下落しました。その後、米大手スマートフォンメーカーの1-3月期の売上高が市場予想を上回ったことや、一部のECBメンバーが早期の利下げが適切と判断していたことが明らかとなったことなどから反発し、7月中旬にかけて、オランダの半導体製造装置メーカーが最新鋭機器を台湾の大手半導体メーカーへ納入する見通しを示したことなどから上昇基調を維持しました。7月下旬に入ると、米自動車メーカーの4-6月期の決算において利益が市場予想を下回ったことなどが嫌気され下落しました。当作成期末にかけては、FOMCにおいて政策金利の0.5%引き下げが決定され、FRBが労働市場を下支えする姿勢を明確化したことや、中国の積極的な景気刺激策を好感したことなどから上昇し、当作成期において世界の株式市場は上昇しました。

一方、為替市場では、米経済の力強さから日米金利差の大きい状態が続くとの見方が強まり、7月中旬にかけて米ドル高・円安が進行しました。その後、9月中旬にかけては日銀が利上げに動く一方、米国は景気減速懸念から利下げ観測が高まり米ドル安・円高が進行しました。当作成期末にかけては、日銀の早期追加利上げ観測の後退や、米長期金利の大幅上昇などから米ドル高・円安となりましたが、当作成期を通じては米ドル安・円高となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2024年4月11日～2024年10月10日)

[世界好配当株投信 (年4回決算型)]

主要投資対象である[世界好配当株投信 マザーファンド] 受益証券を、当作成期を通じておおむね高位に組み入れました。

[世界好配当株投信 マザーファンド]

・組入比率

株式(投資信託証券を含む)組入比率はおおむね高位を維持しました。

・当作成期中の主な動き

- (1) 地域別比率につきましては、北米、欧州、アジア・オセアニア(日本を含む)の三地域の投資比率が、おおむね各地域の先進国市場の投資可能な時価総額構成比に準じたものになるように留意しながら運用しました。
- (2) 業種別比率につきましては、収益力や増配の継続性、および配当利回りで見たと割安度の判断から、ヘルスケア、生活必需品などをオーバーウェイト(参考指数に比べ高めの投資比率)としました。一方、情報技術、コミュニケーション・サービスなどをアンダーウェイト(参考指数に比べ低めの投資比率)としました。
- (3) 銘柄につきましては、収益の安定性と資本政策に対する信頼度が高く、配当利回りや増配の傾向などから割安と判断したMICROSOFT CORP(米国/ソフトウェア)、BROADCOM INC(米国/半導体・半導体製造装置)、ASTRAZENECA PLC(英国/医薬品)、NESTLE SA-REG(スイス/食品)、PHILIP MORRIS INTERNATIONAL(米国/タバコ)などを組入上位銘柄としました。
- (4) 為替につきましては、ヘッジ(為替の売り予約)はしていません。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2024年4月11日～2024年10月10日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

第78期

参考指数 (MSCI ワールド インデックス (税引後配当込み、円換算ベース)) が12.2%の上昇となったのに対して、基準価額は7.8%の上昇となりました。

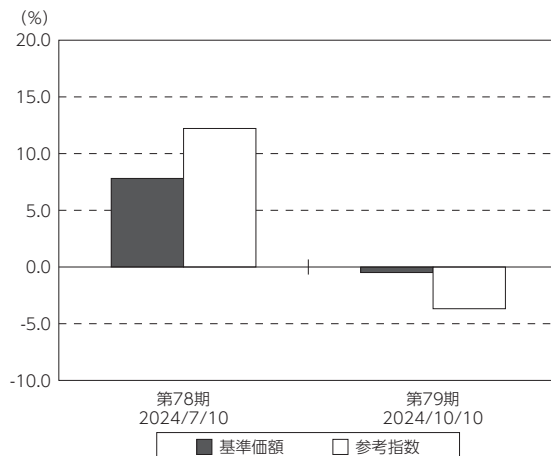
(主なプラス要因)

- ①業種別では、業績の景気感応度が高く、収益の安定性に乏しいことからアンダーウェイトとしていた一般消費財・サービスセクターの株価騰落率が参考指数を下回ったこと、資本財・サービスセクター内での銘柄選択効果がプラスに寄与したこと
- ②個別銘柄では、相対的に配当利回りが高く、株主還元 to 積極的な姿勢を評価してオーバーウェイトとしていた米国の情報技術株や、相対的に配当利回りが高いことと過去からの増配実績を評価してオーバーウェイトとしていた米国の生活必需品株などの株価騰落率が参考指数を上回ったこと

(主なマイナス要因)

- ①業種別では、相対的に配当利回りが低いことなどからアンダーウェイトとしていた情報技術セクターの株価騰落率が参考指数を上回ったこと、ヘルスケアセクター内での銘柄選択効果がマイナスに影響したこと
- ②個別銘柄では、業績は堅調に推移しているものの、バリュエーション (投資価値評価) の観点から投資妙味に乏しく非保有としていた米国の情報技術株や、配当利回りを見た株価の割安感が乏しく、堅調な業績動向が十分に株価に反映されたとみてアンダーウェイトとしていた米国の情報技術株などの株価騰落率が参考指数を上回ったこと

基準価額と参考指数の対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、MSCI ワールド インデックス (税引後配当込み、円換算ベース) です。

第79期

参考指数が3.7%の下落となったのに対して、基準価額は0.5%の下落となりました。

(主なプラス要因)

- ①業種別では、相対的に配当利回りが低いことなどからアンダーウェイトとしていた情報技術セクターの株価騰落率が参考指数を下回ったこと、ヘルスケアセクター内での銘柄選択効果がプラスに寄与したこと
- ②個別銘柄では、無配銘柄であることから非保有としていた米国の一般消費財・サービス株の株価騰落率が参考指数を下回ったことや、相対的に配当利回りが高いことや過去からの増配実績を評価してオーバーウェイトとしていた米国の生活必需品株の株価騰落率が参考指数を上回ったこと

(主なマイナス要因)

- ①業種別では、中期的な成長性と増配余力に乏しいとみてアンダーウェイトとしていた不動産セクターの株価騰落率が参考指数を上回ったこと、公益事業セクター内での銘柄選択効果がマイナスに影響したこと
- ②個別銘柄では、株主還元策の強化を行なう方針を示したことで今後の増配が期待されることからオーバーウェイトとしていた米国の情報技術株や、安定的な収益力を背景に積極的な株主還元を行なっている点を評価してオーバーウェイトとしていたスイスの生活必需品株などの株価騰落率が参考指数を下回ったこと

分配金

(2024年4月11日～2024年10月10日)

- (1) 収益分配金につきましては、基準価額水準等を勘案し、配当等収益を中心に1万口当たり、第78期、第79期ともに100円とさせていただきます。
- (2) 留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

| 項目 | 第78期 | 第79期 |
|-----------|-----------------------|------------------------|
| | 2024年4月11日～2024年7月10日 | 2024年7月11日～2024年10月10日 |
| 当期分配金 | 100 | 100 |
| (対基準価額比率) | 0.366% | 0.369% |
| 当期の収益 | 100 | 51 |
| 当期の収益以外 | — | 49 |
| 翌期繰越分配対象額 | 18,121 | 18,119 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率は異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

【世界好配当株投信 マザーファンド】

運用チームは、当ファンドの投資方針である、安定的な配当収入を得ながら中長期の値上がり益の獲得を目指すために、長期にわたって自信を持って保有できる配当実績のある優れた企業の株式を配当利回りで見ても割安な水準で投資していくことを目指します。企業業績の「果実」である現金配当を分配金の形で定期的に得ながら、短期的な値動きに左右されず中長期で株価の値上がり益を狙いたい投資家の方々を念頭に今後も運用を行なってまいります。

ポートフォリオの構築に際しては、①これまでに行なわれた金融引き締めが实体经济に想定外の悪影響を与えるような状況、②欧米各国の中央銀行が金融緩和へ政策転換したことで、株式市場の動向が変化するような状況、③米大統領選挙へ向けての政策論争が保有銘柄の中長期見通しへ悪影響を与えるような状況、などのリスク要因も意識した上で、

- (1) 安定した収益力と増配実績が確認でき、今後も業績の拡大が期待できる企業群、
 - (2) 景気変動の波を超えて収益を生み出せる、差別化された商品や技術力、あるいはビジネスモデルを持った企業群、
 - (3) 経営改革に注力し、収益性や株主還元策の改善が期待できる企業群、
- などに注目していく方針です。

当ファンドで保有する企業の多くは収益基盤を着実に拡大させている一方、比較的多額の現金を保有していることから、引き続き、増配や自社株買い戻しによる株主還元への拡大が期待されます。運用チームは、弊社のグローバル調査体制を活用し、企業とのコンタクトを通じて、「質の高い企業を、配当利回りで見ても割安な水準で買う」というシンプル、かつ有効性を示す実証分析が多い投資手法に注目することで、運用資産の長期的な成長を目指してまいります。

また、引き続き株式の組入比率を高位に保ち、北米、欧州、アジア・オセアニア（日本を含む）の三地域への投資比率が、おおむね各地域の先進国市場の投資可能な時価総額構成比に準じたものになるようにすることで、通貨分散を図りながら運用資産の長期的な成長を目指してまいります。

なお、ファンドは組入外貨建資産について為替ヘッジを行わないことを基本とします。

【世界好配当株投信（年4回決算型）】

主要投資対象である【世界好配当株投信 マザーファンド】受益証券の組み入れを高位に維持し、基準価額の向上に努めます。

当ファンドは、配当等収益を中心に安定分配を行なう方針です。引き続き、「中長期的な配当収入の増加と信託財産の成長」で、ご投資家の皆さまが増配企業への長期投資のメリットを実感していただけますよう努めてまいりますので、長期的な視点でファンドの保有を継続していただきますようお願い申し上げます。

お知らせ

投資信託約款に規定している委託者が行なう公告を掲載する当社ホームページのアドレスを「<http://www.nomura-am.co.jp/>」から「<https://www.nomura-am.co.jp/>」に変更する所要の約款変更を行ないました。
 <変更適用日：2024年7月4日>

2024年11月5日より、ファンドの設定解約の申込締切時間は以下の記載のとおり変更となる予定です。

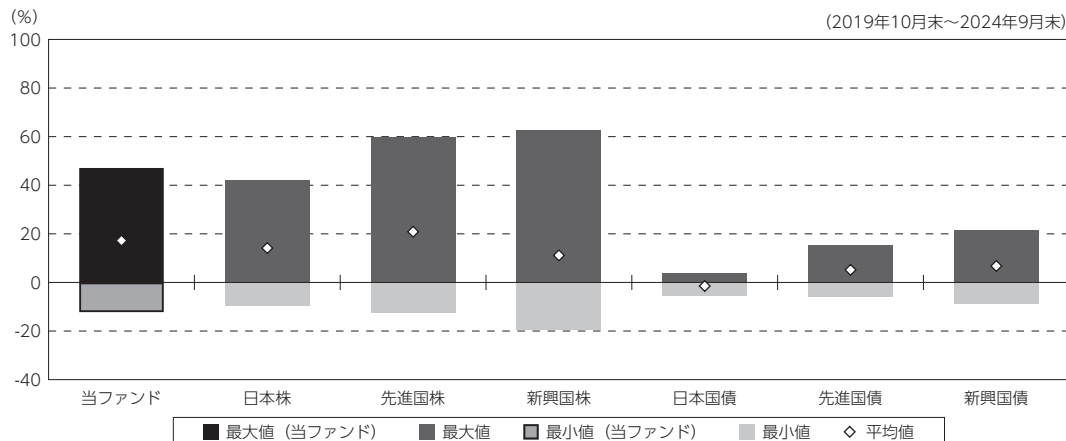
原則、午後3時30分までに、販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。
 (販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。)

当ファンドの概要

| | | |
|--------|--|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／株式 | |
| 信託期間 | 2004年11月26日以降、無期限とします。 | |
| 運用方針 | 世界各国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。安定した配当収益の確保に加え中長期的な値上がり益の獲得を目指します。世界を「北米」「欧州」「アジア・オセアニア（日本を含む）」の三地域に分割し、各地域への投資比率は概ね各地域の先進国市場の投資可能な時価総額構成比に準じた比率とします。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。 | |
| 主要投資対象 | 世界好配当株投信（年4回決算型） | 世界好配当株投信 マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお株式等に直接投資する場合があります。 |
| | 世界好配当株投信 マザーファンド | 世界各国の株式を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | 世界好配当株投信 マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。 | |
| 分配方針 | 年4回の決算時に、原則として配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。ただし基準価額水準等を勘案し、安定分配相当額のほか、分配原資の範囲内で委託者が決定する額を付加して分配する場合があります。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。 | |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 47.1 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 3.7 | 15.3 | 21.5 |
| 最小値 | △ 12.2 | △ 9.5 | △ 12.4 | △ 19.4 | △ 5.5 | △ 6.1 | △ 8.8 |
| 平均値 | 17.2 | 14.1 | 20.9 | 11.1 | △ 1.5 | 5.2 | 6.8 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年10月から2024年9月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

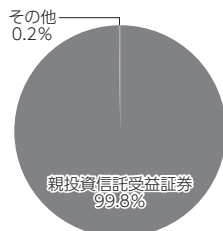
組入資産の内容

(2024年10月10日現在)

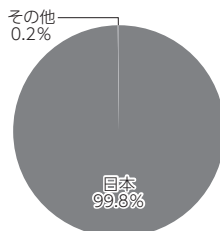
○組入上位ファンド

| 銘柄名 | 第79期末 |
|------------------|-------|
| 世界好配当株投信 マザーファンド | 99.8% |
| 組入銘柄数 | 1銘柄 |

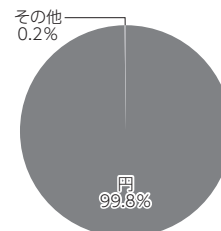
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

| 項目 | 第78期末 | 第79期末 |
|------------|-----------------|-----------------|
| | 2024年7月10日 | 2024年10月10日 |
| 純資産総額 | 25,718,042,489円 | 25,036,586,150円 |
| 受益権総口数 | 9,448,612,662口 | 9,277,705,161口 |
| 1万口当たり基準価額 | 27,219円 | 26,986円 |

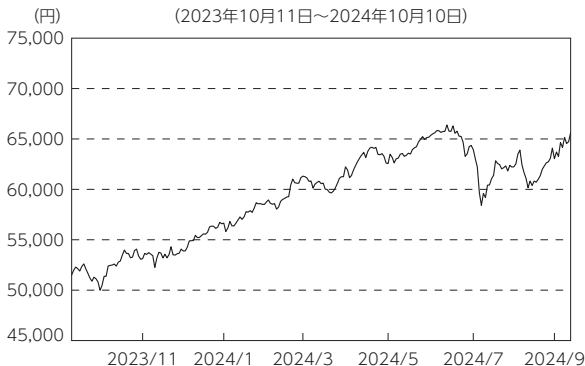
(注) 当作成期間中（第78期～第79期）における追加設定元本額は293,522,986円、同解約元本額は500,345,171円です。

組入上位ファンドの概要

世界好配当株投信 マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2023年10月11日～2024年10月10日)

| 項目 | 当期 | |
|------------------------|------------|------------------|
| | 金額 | 比率 |
| | 円 | % |
| (a) 売買委託手数料 (株 式) | 18 (18) | 0.030 (0.030) |
| (b) 有価証券取引税 (株 式) | 17 (17) | 0.029 (0.029) |
| (c) その他費用 (保 管 費 用) | 6 (6) | 0.010 (0.010) |
| (そ の 他) | (0) | (0.000) |
| 合 計 | 41 | 0.069 |

期中の平均基準価額は、59,453円です。

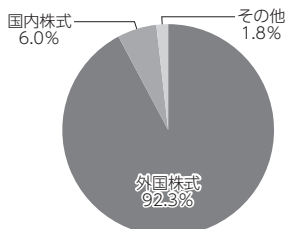
(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

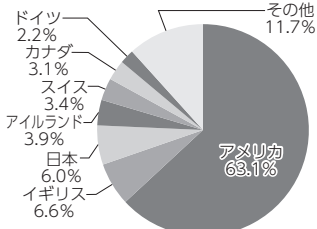
(2024年10月10日現在)

| 銘柄名 | 業種/種別等 | 通貨 | 国(地域) | 比率 |
|-------------------------------|-------------|--------|-------|------|
| 1 BROADCOM INC | 半導体・半導体製造装置 | 米ドル | アメリカ | 4.6% |
| 2 MICROSOFT CORP | ソフトウェア | 米ドル | アメリカ | 4.3% |
| 3 ASTRAZENECA PLC | 医薬品 | 英ポンド | イギリス | 2.2% |
| 4 NESTLE SA-REG | 食品 | スイスフラン | スイス | 2.1% |
| 5 JOHNSON & JOHNSON | 医薬品 | 米ドル | アメリカ | 1.9% |
| 6 ABBVIE INC | バイオテクノロジー | 米ドル | アメリカ | 1.7% |
| 7 ARES CAPITAL CORP | 資本市場 | 米ドル | アメリカ | 1.7% |
| 8 PHILIP MORRIS INTERNATIONAL | タバコ | 米ドル | アメリカ | 1.7% |
| 9 ORACLE CORPORATION | ソフトウェア | 米ドル | アメリカ | 1.6% |
| 10 US BANCORP | 銀行 | 米ドル | アメリカ | 1.6% |
| 組入銘柄数 | | 119銘柄 | | |

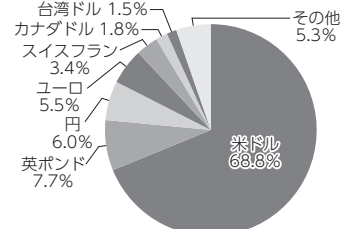
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
 (注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

配当込みTOPIX (「東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)」といいます。)の指数値及び東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)に係る標準又は商標は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社 (以下「J P X」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)に係る標準又は商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P Xにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

○MSCI-KOKUSAI指数 (配当込み、円ベース)

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI指数 (配当込み、円ベース)、MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行なわれる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます)についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co.及びその子会社(以下、JPM)がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPMやその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。米国のJ.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」と呼びます) (「指数スポンサー」)は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLCはNASD, NYSE, SIPCの会員です。JPMorganはJP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行なう際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)